

# JAAC だより

## 将来の新しい留学の形とは

### — 大学教育のグローバル化を目指す —

前号では、日中韓3か国が大学間の交流・連携推進をさらに計る試みとして「CAMPUS Asia : キャンパス アジア」構想をご紹介しました。今号では、この構想を推し進めることにより、大学教育そのものがどのように変わっていくのかを、皆様とご一緒に考えてまいりたいと思います。

「CAMPUS Asia : キャンパス アジア」という言葉からもお分かりのように、この構想の基本にあるものは、アジア全体を大きなキャンパスとして考えることです。それらの大学間において教員の交流をはじめとして、学生の交流を促し、それぞれの大学で学生が履修した単位は、学生が母国の大学に復学した際にも（卒業のための）取得単位として認められることを前提としています。それを実現させるためには、さらなる話し合いが必要でしょう。もちろん、今でもその話し合いは継続しています。特に、学生の交流ということについては、より多くの日本人学生が中国や韓国に留学することも大切ですが、韓国や中国からもさらに多くの留学生が日本の大学で学べる仕組み（システム）を作り上げることも重要です。これらは、国の協力無くしては、実現しません。アジアをリードする日中韓3か国の間には、政治的、経済的、社会的といった様々な問題があります。しかし、教育・交流という分野においては、それぞれの国家間が抱えるこうした問題を超越した次元で考えるべきものではないでしょうか。

「CAMPUS Asia : キャンパス アジア」構想を拡大解釈すれば、アジアに巨大な一つのキャンパスができることではないかと私は思っています。また、そう願っている、と言ってもよいと思います。アジア全体の一つのキャンパスであるからこそ、単位互換はもちろんのこと、将来的には単位移行も容易にできることを期待しています。そうすれば、日本の大学に入学して、中国や韓国の大学を卒業する、ということも可能になるでしょう。また、その逆の形もありえることでしょう。すでにアメリカのいくつかの大学では、日本の大学で取得した単位のほとんどを認めるというシステムを実施しているところもあります。キャンパス アジアの学生は、自分の専門分野や興味のある分野において卓越した大学で学ぶことも可能になることでしょう。そして、その大学を卒業したいと思えば、それも（容易ではないにしても）可能になることでしょう。さらには、学生たちは大学時代のある期間を海外の大学で学ぶことが当たり前となり、互いの文化をより理解する機会を得ることでしょう。また、韓国語や中国語、さらには英語の習得にも繋がることでしょう。

このように、留学する環境が整えられた状況の中で「留学」することが、新しい形の留学となるのではないのでしょうか。JAAC生のように、日本の大学に行くことを選ばずに、アメリカの大学で学び、卒業することを目指す留学の形もあります。このような、従来の形の留学を選んだ学生たちにとって、すべてが有利に働くものではなく、且つまた、すべてがメリットとなるものでもなかったと思います。しかし、JAAC生が体験している従来の形の留学と、新しい形の留学と言われるものでは、身に付けてくるものも違います。今後、いろいろな形の留学が整備されていくということが、「留学」そのものの新しい時代の到来と言えるのではないのでしょうか。どちらの留学の方が良いとか、優れているとか、決して優劣をつけられるものではありません。それは、個々に違う目的を持って留学するのですから、留学性一人ひとりの数だけ、個々の目的に合った留学の形があるのです。

今年に入ってから、本紙上において教育の場や大学教育のグローバル化ということについて皆様とご一緒に考えてまいりましたが、皆様はどのように思われましたでしょうか。私は、教育の場のグローバル化について検討しているのは日本だけではなく、諸外国も同様に考えていることだと、あらためて確認いたしました。そして、それら多くの国々でも日本と同様に、グローバル人材の育成を国策として推進していこうと試みていることです。そこには、多くの国々の文化や言語を習得し、優れた世界標準レベルの学識を兼ね備えたグローバル人材の育成を急務としている国々の姿勢が表れているように思います。近い将来、世界の距離は今以上に縮まることでしょう。そして、今以上にボーダレス（国境や地域の境がない）な世界社会になると考えられます。それに伴い、母国語以外の言語によるコミュニケーション力も今以上に求められるでしょう。様々な国々の異なる文化を理解することも求められるでしょう。そのためにも、CAMPUS Asia、EUのErasmus Mundusや北米（アメリカ・カナダ）の大学連携などとの教育交流・連携が進み、近い将来には世界的規模による大学教育の連携が計られることを期待しています。それが叶う時、真の大学教育のグローバル化が実現する時だと確信しております。（完）（カリフォルニア事務局： 照井）

## 現在、就職活動をしている JAAC 生の皆さんへ

### － 面接時の留意点 －

現在、就職活動中の JAAC 生も多いことと思います。先日、今年大学を卒業して、現在、実際に就職活動をしているカリフォルニア生から面接の際の留意点について相談を受けました。そこで、同じような境遇の JAAC 生に対して、面接時の留意点についてお話をしてみたいと思います。

まず、面接とは何か、を考えてみましょう。面接は、学生と企業側が直接会って、お互いをよく知る機会です。学生はその場を借りて、短時間の間に自分自身をアピールし、志望企業に就職したい意思表示をしなければなりません。一方、企業側はこれから一緒に働いていく仲間として、将来を語り、将来を共にしていく同僚としてふさわしいかを見極めるのです。そこで、一般的には、次の項目について皆さんは準備しておく必要があります。

1. 動機： 興味のある仕事で、自分に合っていると思われること。
2. 意欲： 自分が持っている能力、資質、適性、特技、スキルなどを活かして、企業に貢献したいこと。
3. 意思： その企業で働くことで、生きがいや働きがいを見つけ、人生をかけて仕事をする強い意志を持っていること。
4. 決意： 仕事を通じて、どのように社会に参加し、貢献したいかの気持ちを伝えること。

これら4つの項目について、面接前に自分なりにまとめておきましょう。そして、面接の際の話し方や答え方にも注意が必要です。ここでも、答え方のポイントとして、次の5点についておさえておきましょう。

1. 簡潔に、答えは短く、明瞭にハキハキと答えること。
2. 聞かれたこと(問われたこと)に率直に答えること。
3. 結論を先に伝え、論旨は明快に話すこと。
4. 自分のことばで話すこと - だれかが言ったことをまねるのではない。
5. 自分自身をよく表す内容のエピソードや具体的な体験を伝えること - 自分らしい発想を知ってもらうことが大切。

企業側は皆さんのどういうところを見極めたいのでしょうか。それを以下にまとめておきます。

1. 外見や印象、2. 人格と人柄、3. 資質や能力、4. 社会性、そして、5. 将来性、などです。つまり、企業側は皆さんがどんな人物かを直接会って、知り、見たいのです。

JAAC 生の皆さんにとっては、留学中に「日本の社会人」と接触して、普段から言葉づかいなどに気をつけて話をする機会が少ないと思います。したがって、面接の前には「若者ことば」や普段「友達と話すようなことばづかい」などが面接時にポロツと出ないように十分に心掛けてください。

この場では紙面の都合もあり、長々とお伝えすることはできませんが、何かご質問やご相談ごとがあれば、いつでもご相談ください。私宛のメールアドレスは下記をご参照ください。 (照井)

【編集後記】まもなくロンドンオリンピックが開催される。代表選手たちも決まった。今年は何のくらいメダルが取れるか楽しみだ●EUの金融危機はどうなるのだろうか。政権交代が行われた国もあるが、日本でもいよいよ政権交代か？ (照井)

Let me remind you . . .

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

◆JAAC 生の皆さんへ： 今夏、帰省される予定のある方は早めに航空券の予約を済ませましょう。

▲留学ビザ (F-1) の再確認： 留学ビザ (F-1) の有効期限が切れる方は、夏休みに留学ビザ更新手続きを行う必要があります。各自の留学ビザの有効期限を再確認しておきましょう。

■就職活動をする JAAC 生の皆さんへ： 希望企業についてよく調べ、海外大学卒業生 (見込み者) を対象としたジョブフェア等の情報には必ず目を通すように心がけましょう。

●JAAC 本部署内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ◎カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)